

## 安全ボランティアの方々と対面式 ~ 4月28日(金) ~



市防犯協会屋代支会長さん

通学路には、暑い日も寒い日も、雨の日も風の日も、子どもたちの登下校を見守ってくださっている安全ボランティア（見守り隊・おさんぽ隊）の方々がいます。

現時点での登録数は次の通りです。

見守り隊：45人 おさんぽ隊11人

\* ボランティアは、随時登録を受付中。ご協力をいただける方は、学校（教頭）まで。  
 長野県には、現在「交通死亡事故多発非常事態宣言」（長野県交通安全運動推進本部長（長野県知事）より）が発令されています。十分気をつけましょう。

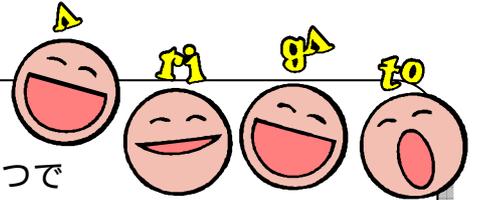
**全体会**で、児童には、次の事項を確認しました。

**元気よくあいさつをしましょう。**

見守っていただいている感謝の気持ちは、明るいあいさつで表しましょう。みなさんの元気な声は、大勢の人たちを元気にする魔法の力があります。

**注意をしてもらったときは、素直に言うことをききましょう。**

交通ルールを守らない、危ない遊びをしているといったときは、注意をしていただくようお願いしてあります。そんなときは、素直「ごめんなさい」とあやまるようにしましょう。



1支部での紹介の会

**支部別の会**では、支部三役の進行で、ボランティアの方の顔をしっかりと覚えるとともに、安全な登下校について再確認をしました。

**ご家庭でも  
ご指導を！**

- (1) 歩行については、「道路には絶対飛び出さず、右左右の安全を確認してから横断すること」を繰り返し指導すること
- (2) 自転車については、「スピードの出しすぎに注意し、交差点では必ず一旦停止をすること」を繰り返し指導すること
- (3) 登校の際は、「車に気をつけて」と声をかけ、玄関先に出て見送ってあげること
- (4) 地区の交通当番では、具体的に歩行の仕方について指導すること

だれもが  
みんな  
すばらしい

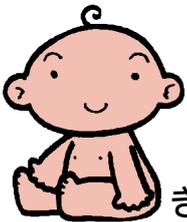
生命誕生のメカニズムが解明されてきた今日、命が生まれるまでには、さまざまな選択があり、天文学的な確率の中で、今の私が形作られたことがわかってきました。



また、医学がすすんでも、出産は大きな危険が伴います。だからこそ、親である私たちは、誕生のとき、本当に大きな喜びと安堵感を感じます。

そして、病気や事故等の困難を乗り越え、子どもたちは育ってきました。

生まれてきて、生き続けてきて、今ここに生きている奇跡  
その存在に大きな価値があるということ



ここが、教育の出発点。「よい子」「悪い子」と区別することも、「できる子」「できない子」と優劣を決めることも、意味のないことです。

例えば、足の不自由なお子さんがいたとします。だれも、速く走りなさいとは言いません。逆に、自分のできるかぎりの力を使って移動している姿に、こちらの方が励まされているような気持ちになります。

人はまったく同じ人はいません。それは、先に述べた誕生の奇跡的な仕組みにあります。また、大変な一日一日を歩んできた過程の違いもあります。そして、ここまで確かに生きてきました。

今の自分の  
ままでいい

それを忘れてしまうと、ここにいる子たちを比べて、順に並べようとしてしまいます。悪いところを見つけて、序列をつけようとしてしまうのです。

「**○**」「**×**」  
をつけない

「**○**」か「**×**」か、どちらの方が優れているかと...

自分が「**×**」「劣っている」と見られていると感じたとき、いったいどんな気持ちになるのでしょうか。「一番になれるはずがない」「できないことばかりではずかしい」...。気持ちが沈んでいきます。

今、ここにいることがすばらしいと考えてみればどうでしょうか。よいところがたくさん見つかれば、だれでもみんな素晴らしい存在になります。

競い合うことは、人間が向上する一つの方法です。しかし、その結果を唯一のもととして、この子の今の姿とすることは、不幸なことのように思えます。

今、ここにいるこの子の存在に感謝し、丸ごと愛し、信頼しましょう。信頼されていることがわかれば、信頼してくれている人に感謝し、その言葉が信頼できるものとなります。

信頼関係が  
人を育てる